医 療 連 携 ニ ュ ー ス
Medical Liaison News
No.18
発行日：2017 年 9 月 25 日
発　行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

ＩＣＴシステムを用いた在宅医療の推進

この度、在宅医療の充実・推進のため、ＩＣＴシステムの導入が決まりましたのでその背景と概要をお知らせいたします。施行は来年3月を予定しています。

1.ＩＣＴシステム構築の社会的背景等

大阪母子医療センターは高度先進医療で周産期・小児の重篤な急性期疾患を救命し治癒（cure）を目指している3次医療機関です。一方で、もともとの障がいを持っている子どもたちや小児期発症慢性疾患の子どもたちの在宅医療や移行期医療を通したケア（care）にも積極的に取り組んでいます。特に後者においては医療・保健・福祉・教育機関との連携を重視し、疾患を持ちながら生きる子どもたちの学校や地域社会での生活を支え、子育てにおける保護者のパートナーを目指しています。また現在、医療技術の進歩に加えて、政府の政策が「慢性の疾患や障がいをもった子どもたちや成人ができるだけ住み慣れた場所で自分らしく生きる」在宅医療を推進していることもあり、医療的ケアが必要な在宅児者は急増しています。

2.在宅療養に対する当センターのこれまでの取り組み

当センターに通う多くの患者さんが在宅医療を行っています。当センターでは大阪府主導の以下の活動を合計6年間行いました。

長期入院児退院促進等支援事業（平成21～23年度）

病院側の医療（医師、看護師）と福祉（ケースワーカー）や心理士による患者と家族に寄り添った相談業務（エンパワーメント）を担う専門職がチームとなり在宅医療の移行を支援しました。

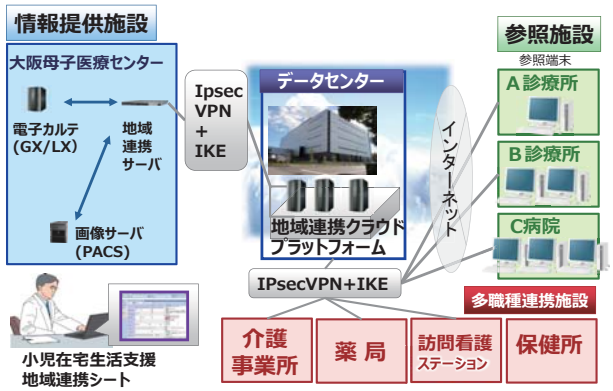
高度専門病院における小児在宅移行支援体制整備事業（平成24～26年度）

生活を支える地域の医療・教育・福祉機関との連携に重点を置いて体制を探り、「大阪発～こないするねん！小児在宅医療移行支援」としてマニュアルにまとめ大阪府のＨＰに公表しました。病院での「安全」であることの主体から「生活や成長発達」の視点を取り入れた支援体制と地域諸機関へのバトンタッチのノウハウを具体的に紹介しています。

3.システムの概要

上記の状況等をふまえ、多職種多機関の連携を強化し、在宅医療を円滑に進めるにあたっては在宅児者の急変時の状況などを地域の医療福祉関係機関の担当者がタイムリーに情報共有する必要性が求められ、今回ＩＣＴシステムを導入することになりました（添付図をご参照ください）。

地域診療情報連携システム概略図



一定のルールのもと地域の医療機関のスタッフが、当センターの電子カルテの内容を随時閲覧し、在宅児者の当センターでの経過を把握することができるようになり、在宅時の医療的ケアをよりきめ細かい充実したものとすることができると思われます。今回の実施事業では、上述の地域医療福祉関係機関の連携強化として取り組んできた「在宅移行期パスおよび小児在宅生活支援地域連携シート」を電子化し、ライフスタイルの変遷に応じて、地域医療福祉関係機関で共有化を行います。

順調に行けばシステム導入は2018年3月です。より良いシステムを作り上げ、患者さんの地域生活がより安心・安全で有意義なものになるように地域の先生方にもご協力をお願いします。　　（患者支援センター長　位田 忍）

基 本 理 念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

診療科の紹介

産科

産科は、現在 14 人の医師が診療を行っています。一般外来に加えて、多胎、胎児、流早産予防、母体合併症、出生前カウンセリング、胎児精密超音波等の専門外来を設けています。

日ごろより地域の先生方から、多くの患者さんをご紹介いただきまして本当にありがとうございます。

胎児疾患については、出生前から、新生児科をはじめとした様々な小児科部門と連携して診療に当たっており、双胎間輸血症候群に対する胎盤血管レーザー凝固術、胎児胸水に対する胸腔羊水腔シャント術など先進的な胎児治療も行っています。また、流早産既往の方に対しては、それぞれの患者さんの背景や妊娠分娩歴に合わせて、今回の妊娠の対応を決めています。母体に糖尿病や甲状腺疾患、高血圧、自己免疫疾患などの合併症のある妊婦さんに対しては、母性内科と協力して診療に当たっています。

胎児精密超音波外来では、近隣の産科医療機関で健診をされている患者さんで、胎児スクリーニングエコーを希望される方に対応するもので、多数のご紹介をいただいております。

産科スタッフ

また、妊娠経過が順調と思っていた患者さんでも急に状態が変わることがあるのが妊娠分娩です。麻酔科、新生児科と協力して、24 時間 365 日、いつでも母体搬送、産科救急に対応できるように体制をとっておりますので、気になることがありましたらご相談ください。今後ともよろしくお願いいたします。

（産科部長　石井 桂介）

発達外来推進室の紹介

母子医療センターにはさまざまな治療を受けた子どもや経過観察の必要な子どもが通院しています。早産や低出生体重児の赤ちゃん、お腹や心臓などの手術を受けた赤ちゃん、胎児治療などの特殊な治療を受けた赤ちゃんなどです。子どもはみんな絶えず成長し、発達しています。その成長と発達は、全く同じではありません。それぞれの家庭や保育園などの集団生活との関わりももちながら大きくなっていきます。成長と発達の過程において、体格であったり、精神や運動の発達であったり、学校での問題であったりと、さまざまな心配事が生じてくることがあります。子どもたちのよりよい生活のためには、そのような問題点を早く見つけて対応し、長期的な視野にたって助言していくことが重要です。

発達外来推進室では、それぞれの子どもを、それぞれの診療科のスタッフとともに、栄養の側面から、また精神運動発達的な側面からフォローし、地域と関わりの深い保健師とともに総合的に成長と発達をみています。また、当センターにはいままでの多くの患者さんのフォローアップの情報が蓄積されてきています。これらの情報も整理しつつ、それぞれの患者さんたちの縦断的な発達の特徴についても考えながら、これからの患者さんに役立てるような情報を発信していきます。

（発達外来推進室室長 平野 慎也）

発達外来推進室スタッフ

連携登録医のご紹介

赤井マタニティクリニック

〒590-0103
大阪府堺市南区深阪南 167
TEL:072-239-5988
http://www.akai-maternity.com/

赤井 マリ子 院長

趣味
開業前には釣りが楽しみのひとつ(現在は封印中)。

当センターに多くの患者さんを紹介していただいています。

当センターへの要望
母子医療センターの医師による勉強会やセミナーがとても勉強になるので、これからも続けてほしい。

赤井マタニティクリニックは、院長先生の弟さんがこの土地を選び、お２人で平成 11 年９月に開業されました。今は院長先生をはじめ、他３名の先生と共に診療にあたられています。

自然なお産を大切にされており、やらないといけないことをしよう、やってはいけないことはしないという姿勢で取り組まれています。そのため赤ちゃんが生まれてくるまではハラハラの繰り返しで我慢の連続ですが、何より赤ちゃんの言葉を代弁できる医者でありたいと言われていました。

スタッフみんなが優しく、患者さんを思う気持ちが一生懸命で、いろんなことに取り組んでくれており、「クリニックの武器は『職員』です」との先生の言葉がとても印象的でした。

「お産はこわくないよツアー」や「母乳外来」など助産師さんも力を発揮されています。

第４回 地域医療連携研修会のご報告

2014 年6 月に第１回を開催し、４回目の本年は、6月3日(土) に梅田スカイビルにて開催され130 名余りの参加者を得ました。

当センターからは、小児神経科の「熱性けいれんとてんかん」、形成外科の「小児の形成外科疾患と治療の実際」の２つの講演で、当センターでの医療内容について紹介させていただきました。

徳島大学特任教授 木戸 博先生の特別講演「インフルエンザ感染の重症化とインフルエンザ脳症の発症機序、治療に向けた提案」は、木戸先生の情熱と強い思いが伝わってくるものでした。

そのあとの意見交換会では母子医療センター各部門代表より各診療科･部門の紹介をさせていただき、和やかな雰囲気で閉会となりました。

大阪母子医療センターは、今後とも
「顔の見える連携」を心がけてまいります。

認定看護師の紹介

新生児集中ケア認定看護師は、早産や出生直後の病気などにより入院が必要な新生児に対し、予防的観点から身体の状態の変化を予測し、きめ細やかな観察を行います。

言葉を発しない新生児の表情やしぐさを読みとり、常に快適に過ごせているか確認しながら、日常生活ケアを行っていきます。また、新生児のご家族に対して、新生児との相互作用や家族内の力を大切にしながら、治療やケアへの参画を促し、早く一緒に生活ができるよう、サポートしています。

小児新生児集中ケア認定看護師
大島 ゆかり

小児新生児集中ケア認定看護師
小谷 志穂

私たちは新生児棟(NICU、GCU) に勤務しており、上記の役割を果たすべく、医師や病棟スタッフ、小児看護専門看護師などと連携を取りながら活動しています。その他にも、スタッフから看護ケアに関する相談への対応および指導的役割も担っています。

出生直後の蘇生室での新生児の安全･安楽な移動方法の検討や新生児にやさしいモニターの開発など、院内の活動にとどまらず様々な活動に取り組んでいます。

当センター内では新生児棟に限らず、新生児期の新生児が入院しています。何か新生児のケアでお困りのことや、もっとこうしたほうが良いのでは？などより良いケアについて、一緒に考えていきたいと思っていますので、お声掛けお待ちしています。

「ユニバーサル・ワンダー・トイハウス」「ユニバーサル・ワンダー・ミルキングルーム」のご紹介

本年5月10日（水）に、「ユニバーサル・ワンダー・トイハウス」（プレイルーム）及び「ユニバーサル・ワンダー・ミルキングルーム」（搾乳室）が当センター2階東棟にオープンしました。

この2つの部屋は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®を運営する株式会社ユー・エス・ジェイが、社会貢献事業であるUSJドリームウィーバーズ活動の一環として、難病の子ども達を支援するため、主要取引先と共にチャリティ・ディナーショーを開催し、その収益の一部から当センターにご寄付をいただいて、完成したものです。

OPEN

イブニングセミナーのお知らせ（医療関係者対象）

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。

時　間	17 時 30 分～ 18 時 30 分
場　所	研究所大会議室
事前申込み	不要

＊大阪府医師会生涯教育研修システム
1単位に認定されています。

ご参加をお待ちしております！

日　程	テーマ	担当部署	講演者
2017年 10/4（水）	小児在宅医療における臨床工学技士の役割	ＭＥセンター	澤竹　正浩
11/1（水）	子どものこころの診療の実際～発達障害を中心に～	子どものこころの診療科	三宅　和佳子
12/7(木)	小児の口腔外科治療	口腔外科	山西　整
2018年 1/10(水)	ここまで手術成績が向上した新生児期開心手術	心臓血管外科	盤井　成光

病院見学ツアー

実施しています！参加ご希望の方は事前にご連絡ください。
参加者の ●氏名 ●医療機関名 ●職種 ●人数
【連絡先】患者支援センター ☎0725-55-3113

セラピードッグのご紹介

セラピードッグって？
触れ合いや交流を通じて病気やケガ、または精神的な痛手を受けた人の不安を減らし、気力を高めこころと身体を癒す働きをする高度な訓練を受けた犬たちです。

「子どもの苦痛は最小限に、笑顔は最大限に」をモットーに活動しているQOLサポートチームが中心となってセラピードッグ導入に昨年から取組んでいます。

今年度は11日を「わんわんの日」として、日本レスキュー協会から3匹のわんちゃんが訪問し、子どもたちに笑顔を運んでくれています。

交通のご案内

診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター　患者支援センター
〒594-1101　大阪府和泉市室堂町 840
【初診専用】　ＴＥＬ：0725-56-9890（直通）
ＦＡＸ：0725-56-5605
【その他】　ＴＥＬ：0725-55-3113（直通）
ＦＡＸ：0725-56-7785
【医師相談窓口】　ＭＡＩＬ：chiren@mch.pref.osaka.jp

医療者対象ホットライン
（※24時間受付直通）

【PICUﾎｯﾄﾗｲﾝ】
☎0725-56-1070

【小児がん・白血病ﾎｯﾄﾗｲﾝ】
☎0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。